

# 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区 保護に関する指針(案)

大 阪 府

1 名 称

箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区

2 区 域

箕面勝尾寺鳥獣保護区内に設置されている府営箕面公園の区域のうち、箕面川の河川区域、滝道及びその法面(併せて幅員 50 メートルの区域に限る。ただし、府道豊中亀岡線から箕面川に下る部分にあっては、滝道の中心線から左右 25 メートルの区域とする。)並びに昆虫館及びその附属施設の区域を除いた区域。

3 面 積

約 7 0 ha

4 存続期間

令和 4 年 1 1 月 1 日から令和 1 4 年 1 0 月 3 1 日まで

5 鳥獣保護区特別保護地区の指定区分

森林鳥獣生息地の保護区

6 鳥獣保護区特別保護地区の指定目的

(1) 地域の概況

本地域は大阪府の西北部にある箕面市のほぼ中央、箕面勝尾寺鳥獣保護区の南部に位置し、南側から東側を箕面特定猟具使用禁止区域(約 2,858 ha)に接している。

北部の箕面大滝から南北に流れる箕面川の溪谷及びその周辺の山林で構成され、植生はシイやカシの照葉樹林、モチツツジーアカマツ群集、アベマキーコナラ群集、箕面川沿いにイロハモミジーケヤキ群集などが見られ、多様な自然環境で構成された地域である。

全域が明治の森箕面国定公園区域内であり、大阪府を代表する自然景観のすぐれた地域で、四季を通じてハイカーや観光客が多く、特に紅葉の季節には箕面大滝を中心に大変賑わっている。

(2) 鳥獣の生息状況

現地調査及び文献調査により鳥獣の生息状況を確認した。

文献調査では、128種の鳥類の生息が確認され、この内訳は、留鳥42%、夏鳥14%、冬鳥31%、旅鳥等13%で、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種に指定されているハヤブサのほか、サンショウクイ、サシバなど13種の環境省レッドリスト掲載鳥類や、ツミ、アオバズク、イカルチドリなど22種の大阪府レッドデータブック掲載鳥類も確認されている。

また、繁殖期に実施した現地調査では、確認された24種のうち12種で繁殖を示唆する行動が確認されている。

本地域は、ハヤブサやオオタカ、フクロウなどの生態系の上位を占める猛禽類が多く生息し、留鳥を主体として、冬鳥や夏鳥も多く生息し、繁殖及び越冬、渡り通過時の鳥類の採餌・休息の場所として一年を通じて重要な生息地である。

獣類に関しては、大阪府レッドデータブック掲載哺乳類であるキツネ、アナグマのほか、ニホンリス、ノウサギ、タヌキなどの生息が確認されており、多くの野生鳥獣の良好な生息地となっている。

### (3) 保護管理に関する事項

許可制度により無秩序な立木竹の伐採や工作物の設置等の開発行為を制限して野生鳥獣の生息環境の保全を図る。また、野生鳥獣の生息状況、生息環境を把握するため、NPO等による野生鳥獣の生息状況調査を活用し、科学的データの収集・蓄積に努め、今後の保護管理に反映させる。

また、行政職員等による巡視活動や警察と連携したメジロ等の密猟の取締りを実施するとともに、鳥獣保護区の境界を明示する標識を設置するなど鳥獣保護区の適切な管理に努める。

さらに、行政機関やNPO等と連携し、当該区域が野鳥観察など人と野生鳥獣との触れ合いの場や自然環境学習の場として学校教育等に積極的に活用されるよう普及啓発に努める。

なお、シカによる森林植生の衰退、シカやイノシシ等による周辺地域への農林業等被害に対しては、大阪府シカ第二種鳥獣管理計画及び大阪府イノシシ第二種鳥獣管理計画等に基づき、有害鳥獣の捕獲等による適切な保護管理を行い、その低減に努める。

# 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区

## 区域図





# 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の風景

参考資料 1-2





# 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区内に生息する 野生鳥獣の生態



サンショウクイ



ニホンリス



サシバ



ノウサギ

**タカ渡り** 箕面は猛禽類の渡りのルート途中に位置しているため、春と秋に上空を通過する猛禽類が見られます。特に秋は個体数が多く、サシバ、ハチクマを中心にノスリも混じって見られます。9月後半の天気がよく、弱い北東の風が吹いて上昇気流ができる日には、「鷹柱」ができて、たくさんの猛禽類を観察できることがあります。



ハチクマ

サシバ

ノスリ

[「箕面ビジターセンターだより」](#)から引用



# 箕面ビジターセンターだより

2022年  
7月・8月  
9月号

季刊 箕面ビジターセンターだより NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行



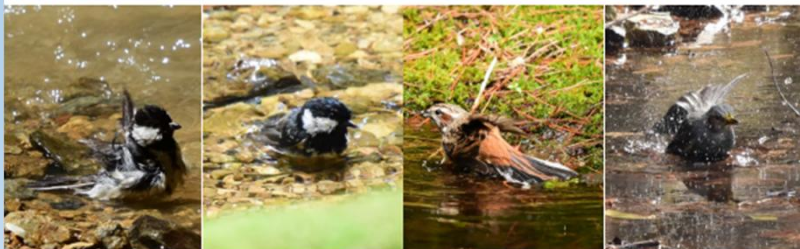
**鳥たちの夏** 箕面国立公園の森の中はコンクリートで囲まれた街なかと比べると真夏でも気温が低く、過ごしやすいです。川の水が流れる音も涼を感じさせてくれます。川辺では鳥たちも水浴びをしています。鳥の水浴びは、体温を下げるためではなく、体を清潔に保つための行動なので夏以外の季節にも見られます。



オオルリ      キビタキ      サンコウチョウ      センダイムシクイ



カワラヒワ      メジロ      キセキレイ      カワガラス



シジュウカラ      ヒガラ      ホオジロ      ヒヨドリ

# 箕面ビジターセンターだより

～明治の森箕面国立公園の自然と生き物～

春の特集号  
(4月・5月・6月号)

明治の森箕面国立公園は四季折々に多様な生物がみられます。このパンフレットは国立公園に生息する生き物たちと、彼らの暮らしを紹介しています。

## 春の森でさえずる鳥たち

木々が芽吹き、虫たちの活動が始まると、春から夏にかけて箕面の森で子育てをする鳥たちがパートナーを見つけるために美しく、力強くさえずります。森の中はとて賑やかになります。



ウグイス      ホオジロ      キビタキ      オオルリ      センダイムシクイ



サンコウチョウ      イカル      メジロ      ヤマガラ      シジュウカラ

オスからメスへ虫を「プレゼント」する求愛給餌行動がみられます。ヤマガラ(左)とオオルリ(右)



つがいが成立すると、ペアで協力して子育てをします。交代で卵を抱いたり、食べものを運んだりします。ヒナが大きくなり、巣から離れても、自力で食べものをとることができるようになるまで続きます。



メジロ      コゲラ      カワラヒワ      キセキレイ



# 箕面ビジターセンターだより

2022年  
1月・2月  
3月号

季刊 箕面ビジターセンターだより NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行

**冬に見られる鳥** 落葉樹の葉がないこの時期は、梢を飛び交う鳥たちを観察しやすくなります。冬場は、シジュウカラやエナガ、ヤマガラなどのカラ類やメジロ、コゲラなどの小鳥たちは、複数の異なる種類で一つの群れを作る「混群」もよく見られます。にぎやかな鳴き声と共に近づいてきて、やがて同じ方向に移動していきます。他種でも一緒に行動することで、捕食者から身を守ったり、食べ物を探すのに有利になるようです。 ※   は混群でよく見られる鳥



シジュウカラ

エナガ

メジロ

ルリビタキ



ヤマガラ

コゲラ

ジョウビタキ

ウソ



シメ

イカル

アトリ

アオジ

**サギの仲間** 水辺ではサギの仲間が見られます。魚やカニなどを採って暮らしています。ダイサギやコサギは、全身の羽毛が真っ白で、まとめて「シラサギ」と言われることもあります。ゴイサギは、夜行性のサギで夕方頃から活動を始めます。



ダイサギ

コサギ

アオサギ

ゴイサギ

**雪化粧の森ハイキング** 寒い日でも冬の澄んだ空気の中をハイキングすれば体も温まります。この季節しか出会えない美しい自然に出会うことができます。



雪が積もった箕面山

オヶ原林道の雪景色

**動物たちの冬** 寒い冬を乗り切るために動物たちも食べ物を探して動き回っています。小枝に残った木の実や冬芽、樹皮などを食べて春の訪れを待ちます。雪がうっすら積もったときには彼らの足跡が残っていることがあります。



ニホンジカ

タヌキ

ニホンザル

ニホンリス



「箕面の山パトロール隊大掃除大作戦」の様子

## 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の 指定スケジュール

